

11. ブロイラーにおける右房室弁の心内膜症様病変(Right vulvular endocardosis like lesion in broilers)

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者	相島, 和久
巻/号	32巻2号
掲載ページ	p. 103
発行年月	1996年8月

食鳥病変シリーズ

11. ブロイラーにおける右房室弁の心内膜症様病変 (Right vulvular endocardosis like lesion in broilers)

キーワード：ブロイラー，右心拡張，房室弁，“腹水症”，心内膜症

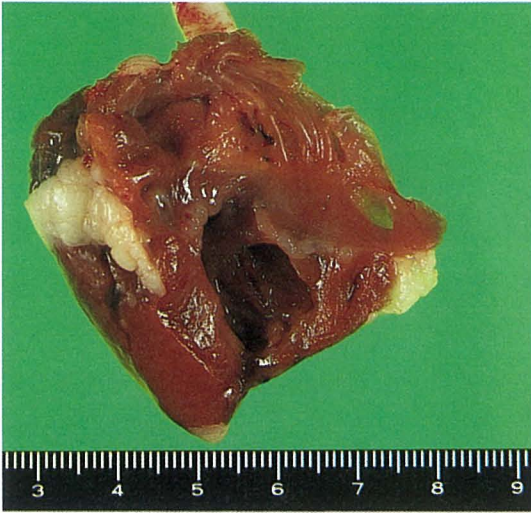


写真 1. 右心室の拡張と壁の肥厚が顕著で，右房室口の閉鎖縁に沿って白色の結節性肥厚が認められた（右心を右縦溝に沿って切開）。

動物：ブロイラー，58日齢

発生状況：“腹水症”と診断されたブロイラーのほぼ全例に認められた。

肉眼所見：心臓の外見は，右心室の拡張が顕著で，右心室壁が肥厚し，心肥大の状態であった。右房室口を構成する筋肉性の弁と心室中隔内膜との閉鎖縁に沿って芥子粒大から粟粒大の表面平滑な白色の結節性肥厚が認められた。

組織所見：10% 緩衝ホルマリン液で固定。弁および心室中隔内膜の結節性肥厚部は，増生した疎な線維性結合組織により構成され，細胞は紡錘形や多角形を示していた。細胞間基質は Azan 染色で淡青色，Elastica van Gieson 染色で淡赤色にそれぞれ染色されたが，増殖した組織内に弾性線維の増殖は認められなかった。Alcian blue (pH 2.5) 染色では細胞間基質が網目状に鮮やかな

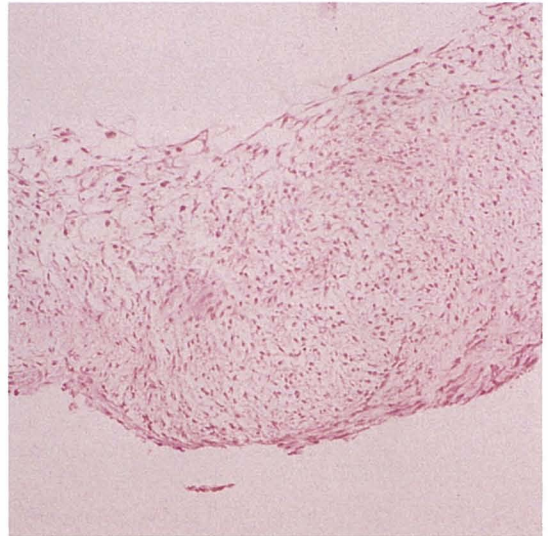


写真 2. 房室境界部の心内膜は弁膜部ばかりでなく線維性肥厚を示す。肥厚の著しい弁膜では線維性細胞の増数と水腫，軽度のリンパ球浸潤を伴う。HE 染色

青色に染まり，酸性ムコ多糖類の存在が証明された。

診断理由：本症の所見は，おもに老齢犬に多発する房室弁の「心内膜症」の所見¹⁾に非常に類似するので，心内膜症様病変とした。

本病変の発生機序は不明である。本病変と“腹水症”との関係については，一部に本病変を記載した“腹水症”の報告²⁾があるが，未だ不明な点が多い。本病変により右房室弁の閉鎖不全が起こり，うっ血性心不全が進行し，“腹水症”を増悪させているものと考えている。

引用文献：

- 1) 板倉智敏・後藤直彰編：獣医病理組織カラーアトラス，p 12，文永堂出版（1990）
- 2) 坂本 淳ら：食鳥処理場における疾病及び異常の把握と対策．鶏病研報 29，23-29（1993）

本シリーズは，厚生省による全国食肉協議会病理部会で発表された事例をそのまま掲載したものです。
事例 No. 1372

著者：相島和久 (Kazuhisa Aijima)

静岡市中央保健所公衆衛生課食肉衛生検査所，〒422 静岡市中吉田 7 番 51 号